

第八回 鬼怒川フォーラム 於 静岡

日 時

平成 24 年 3 月 3 日(土)～ 4 日(日)

場 所

ホテルアンビア松風閣
静岡県焼津市浜当目海岸通り星が丘

事務局

獨協医科大学 病理学 (人体分子)

《ミニシンポジウム》“直腸病変の謎”

直腸 (Rb) 癌の謎に迫る

藤井隆広クリニック¹⁾, 国立がん研究センター内視鏡部消化器科²⁾

藤井隆広¹⁾, 松田尚久²⁾

日本人の大腸癌は死亡率・罹患率ともに上昇を続けているなかで、結腸癌とくに右半結腸癌の増加に対し、直腸癌は減少傾向にあるとされている。しかしながら、直腸の進行癌は未だに多く、その前癌病変についての詳細は不明である。今回、その前癌病変を明かにすることを目的に検討を試みたが、直腸 Rb における前癌病変についての謎は深まるばかりである。直腸 (Rb) には過形成結節、過形成ポリープ、LST-G, carcinoid tumor などが多く認められるものの、de-novo 発癌の表面型腫瘍、とくに陥凹型腫瘍や LST-NG は少ない。

大腸癌の発育進展ルートには、adenoma-carcinoma sequence, de-novo 発癌に加え、近年、過形成性ポリープの一部が serrated adenoma や sessile serrated adenoma and polyp を介し大腸癌へ進展するとされる Serrated pathway も注目されている。このことから、直腸に多く存在する過形成性ポリープや過形成性結節、Aberrant Crypt Foci などが直腸癌の前駆病変という位置づけも考えられるが、現在までの報告では Serrated lesion の好発部位が直腸であるとも言い難い。直腸 (Rb) における前癌病変は何か？、大腸癌の発育進展を解明する上で、直腸 (Rb) のミステリーにスポットをあてた検討は大切なことと考え、データならびに症例を提示する。